

令和5年度長久手市地域福祉計画等策定推進委員会 会議録（要旨）

会議の名称	第7回長久手市地域福祉計画等策定推進委員会	
開催日時	令和6年3月12日（火） 午前10時から正午まで	
開催場所	長久手市保健センター3階 会議室	
出席委員 (敬称略)	平野 隆之 住田 敦子 松宮 朝 加藤 圭子 岡元 洋子 竹田 晴幸 川本 さつき 川上 雅也 水野 道子 宗 絵美子 水野 美々子 寺西 弘治 浅井 通正	
欠席委員 (敬称略)	横山 智絵子 吉田佳都子 鬼頭 和宏	
事務局 (敬称略)	(長久手市) 地域共生推進監 國信綾希 地域共生推進担当課長 山田美代子 同地域共生推進係長 浅見景 同主任 福岡喬 福祉部長 川本満男 福祉部次長 中野智夫 福祉課長 堤健二 福祉課福祉協働係長 神藤貴司 同主任 都築康成 長寿課長 水野真樹 健康推進課長 遠藤佳子 同健康増進係長 近藤小百合 (長久手市社会福祉協議会) 事務局長 見田喜久夫 地域福祉チーム 深谷美砂子	

次第	<p>1 あいさつ</p> <p>2 議題</p> <p>(1) パブリックコメン実施結果について</p> <p>(2) 第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画、第2次地域自殺対策計画（案）の承認について ・一体的に策定する計画と推進について</p> <p>3 連絡事項</p>
配 布 資 料	<p>(1) 次第</p> <p>(2) パブリックメント実施結果について（資料1）</p> <p>(3) 第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画。第2次地域自殺対策計画（案）（資料2-1）</p> <p>(4) 一体的に策定する計画と推進について（資料2-2）</p> <p>(5) 重層的支援体制整備事業実施計画（資料3）</p>
公開・非公開の別	公開
傍聴者人数	0名

議事内容

議事	
委員長	<p>それでは最後になるが、計画策定推進委員会を始めたい。</p> <p>最初に、次第を見ると、先ほど案内にあったように、パブリックコメントが1名から出ているので、そのことを最初に扱い、その後それぞれの計画について説明いただきながら、皆さんと今後この計画をどう推進していきたいかのような話までできるといいかと思っている。</p> <p>それでは最初に資料1パブリックコメントの実施結果について報告をお願いしたい。</p>
<p>(1) パブリックコメント実施結果について (資料1に基づいて事務局から説明)</p>	
委員長	<p>市の回答の中身について、ご意見伺いたい。</p> <p>先ほどの説明で、具体的にご意見の要旨の中には直接ひきこもりという表現はなかったかと思うが、その具体的なことが例えば重層的支援体制整備事業実施計画の中にこういう形で記載されてるとか、そこまで書かなくても大丈夫か。</p> <p>直接ひきこもりの課題ということでなくてもいいが、せっかく具体的な計画を知りたいということなので、一般的にホームページで公表するというよりは何か具体的な中身をこの回答の中に盛り込んでもいいのではないかと、委員長として出過ぎたかもしれないが、そういう感想を持っている。</p>
事務局	<p>このパブコメの意見の回答を書く時にいろいろ考えさせていただいて、シンプルに回答するのがいいのか、詳細に書くのがいいのか悩んだところだが、こういったアウトリーチで継続しながら、その方と信頼関係を築きながら、その方自身のつながりをつくっていくというのが本当に重層の醍醐味というか、大きな目的となるので、そちらの点を簡潔にアウトリーチしながら参加支援に結び付けていくというような事業内容について、少し記載するという形を取りたい。</p>
委員長	<p>後で実施計画のほうでN-ジョイのこともあり、その上の文章には相談窓口兼居場所というようなことも書いてあるので、実際に実施計画の議論の段階でまた意見を頂戴してもいいと思う。せっかく貴重な1人だったということもあるので、ぜひ丁寧なご対応いただければと思う。</p>
委員	<p>この方はせっかく自分が何かできることがないかということをおっしゃってるので、何かしらできることをというか、何かつながりを付けておくといいのかなと思う。</p>
委員長	<p>では計画の文言というより、担当課というか、そういう立場から配慮したいとか何かしら書いていただくようにしたい。本当に主体的な意味でも書いていただいているので、考慮することにしたい。</p> <p>計画のパブリックコメントを求めて、長久手の場合にはあまりたくさん出てこないというのが一般的だという理解でいいか。今年は介護保険事業とか障がいの計画などもパブリックコメントがあったかと思うかどうか。</p>
事務局	<p>福祉課ではもう1点、ながふく障がい者プランという計画も策定していて、ちょうど同じタイミングでパブリックコメントを実施したが、そちらのほうも1件だけだった。本計画、障がいの計画のほうも説明会を行ったが参加者はゼロという形だった。</p>

委員長	<p>このパブリックコメント自体の有効性みたいなのは国のはうでも議論になっているようなことがあったが、何か工夫の余地があるのか。</p> <p>私は、この間兵庫県の芦屋市の審議会で、さっき言った障がいと介護の計画はパブリックコメントを実施したが、これも 20 件ぐらいは出ていた。このパブリックコメントの方法については、住民モニターみたいなのをつくるとか何か考えてもいいのかなと思う。</p> <p>それでは、本来の計画の説明のほうに移りたい。</p>
(2) 第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画。第2次地域自殺対策計画（案）の承認について（資料2-1、2-2に基づいて事務局から説明）	
委員	79 ページだが、ボランティアの不足というところで、右上のコメントの中に「ボランティア団体相続の危機」と書いてあるが、ボランティア団体の「相続」ではなく存続とか継続になるんじゃないかなと思う。
委員長	おそらく誤字だと思う。
事務局	誤字である。修正する。
委員	<p>同じページの中で、中学生らしい子どもたちが自分たちにできることはというコメントも入ってるが、最初のパブリックコメントであったように、生徒たちが外ですることも必要だが、学校の中でいじめとかひきこもりなどの支援みたいなことはできないのかと思って見てたが、学校で仲間が支えるというのは大切な気がする。</p> <p>外に向けてばかりじゃなく、自分たちの学校でもできることがいっぱいあるんじゃないかなと思う。</p>
委員	<p>1 ページのところで、下から 9 行目の「高齢化は一層進み」という文章があるが、前の文章を読むと、高齢化になっているということは書いてない。一層ということは、前に高齢化になっていて、それが一層進むということだから、一層というのはこの文章としてそぐわないのかなと思った。</p> <p>一番下の「市民の参加を得る」について、市民側からすると、参加もそうだが、協力という言葉も考えられるかなと思う。</p>
委員	<p>感想になるが、全体の計画を読んで、私も長いことこの会に参加させていただいて勉強させていただいたが、1 次、2 次と比べて、より内容が具体化されて市民に分かりやすい内容になってきたと思う。特に今回それぞれの基本目標ごとにエピソードを加えていただいたというので、具体的なイメージが、言葉だけでなく、エピソードの中から市民の方が気付きやすいんじゃないかということを感じた。そういう点で、市民の参加を促す 1 つの手掛けになるんじゃないかなという感想をもった。</p> <p>ただ、2 次の意識調査が資料の中にあったが、なかなか関心はあっても実際にそういった活動をしてみえる方がまだまだ 2 割程度というような結果が出ていて、その具体的な動きをしてみえる方がまだまだ少ないという現状だ。今回のパブリックコメントも 1 件しか出てこなかったということも 1 つの現れかと思うが、市民の方がそういった新しいまちづくりというような観点から、わが事として捉えていろんな形で参加するような形に果たしてうまくなっていくのかということで、先ほど資料 2 のほうで今後の推進についての計画というのも出ているが、やっぱり私ど</p>

	そもそもまちづくり協議会というところに属して、実際に自治会のほうの加入の増加だとか、それから共生ステーションを中心としたいろんな市民活動の活発化ということをこれから重点目標に掲げてまちづくり協議会全体で取り組んでいこうというような意思疎通もしているところだが、そういういった具体的な参加に向けたいいろんな行政機関、それから市民団体含めての活動をいかに活発化していくかということがからの課題だなということを思った。
委員長	アンケート結果と実際の計画を進める間ってそう簡単には埋まらないんじゃないかなという話もあって、逆に言うと、この推進する側の課題みたいなものも大きいんじゃないかなという指摘だと思う。少し意見を頂いた上で、また事務局のほうから意見を頂くことにしたい。
委員	これは個人的な意見だが、88 ページの自殺対策のところで、目指すべき姿というところが「誰も自殺に追い込まれることのない長久手市」という、イメージが湧かないというか、ネガティブじゃないかなと。これは1次の時の継続だと書いてあるので、そうかと思ってるが、下に1、2、3、4 と要因が書いてあって、例えば何らかのサインを発していることが多いというところを取って、例えば小さなサインに気付き合う長久手市とか、もう1つ下に、2 行目に、生きることの促進要因を増やすというふうに、これが防止につながると書いてあるので、生きることの促進要因を増やす長久手市とか、ポジティブな行動を言ったほうがいいんじゃないかなと思った。
委員長	これは結構大きなご指摘かなと思うが、担当に聞く前に、先ほど注意深く言われたように、1次の時に既にこういう目指すべきっていうのが設定されてるんだけれどもという上で、委員からもう少しポジティブなネーミングのほうがいいんじゃないかなという指摘だが、いかがか。
委員	1次からということで自分の問題でもあるが、これは確かに、より良いものがあるんじゃないかなということだと思う。その基本認識のところで防ぐことができるとかサインを発してると先ほどおっしゃってたように、何か相談のしづらさとか、孤独・孤立、自殺に至るそういう孤立を防ぐとか、地域福祉計画と一緒にすることも含めて、そういう趣旨のスローガンにしたほうが、何か個人の話だけに見える。確かに自殺に追い込まれるというのは1人が追い込まれていく、逆にそれを防ぐとか、防止するとか孤立を防ぐみたいな、前向きな防止のところで言ったほうがいいと思った。 関連して、自殺で先ほど申し上げようと思っていたが、その前の82 ページに、自殺に追い込まれることがない社会を目指して自殺対策の基本法が改正されたみたいなところ、おそらくこういうところから来ていたと思うが、むしろ今、2021 年から孤独・孤立対策推進室ができて、2023 年、孤立対策の基本法ができたので、そういうところと関連した文言を入れて、自殺につながるような孤独・孤立、もちろん経済的な要因も生活困窮もあるが、そういう文言、国の動向を入れつつ、孤独・孤立を防止するとか、相談しやすい、自殺に至る前に予防させるといったようなニュアンスを入れれば、ちょうど合うかなと思う
委員長	所管のほうでも少し検討いただいて、もし検討の余地があれば発言をお願いしたい。

事務局	<p>国で出されている地域自殺対策計画策定見直しの手引きなども参考して検討してきたところだが、第1次計画と目指すべき姿が変わるわけではないと思うので、継続という考えがあったのも1つ、あとは、手引きの中にも、最終的な目標は誰も自殺に追い込まれることがないというのを共有すべきというような文言もあったので、ネガティブな表現がどうかという議論も課内でもあったが、それも目指すべき姿、国の最終的な目標というものを生かしたという形で、今のところは計画案としていたところ。</p> <p>ご意見のほうはありがたく頂戴して、課内、部内でも検討していきたい。</p>
事務局	<p>今、担当が説明させていただいたようなこちらの目指すべき姿は、国から示されているような手引きなども参考にして、目指すべき姿ということで、第1次からこの姿を目指すということで取り組んできた。</p> <p>委員がおっしゃっていただいたような意見を頂いて、目指すべき姿としては、パブリックコメントも終わった段階となるので、このままで第2次自殺対策計画はいきたいと思うが、説明部分の書き方などは、少し検討はできるかと思うので、補足するような文言など検討していきたい。</p>
委員長	つまり修正しないという意味か。
事務局	目指すべき姿についてはこちらでいきたいと思っている。
委員長	<p>策定委員会で修正したほうがいいという意見が出た。余地があるのかどうか。</p> <p>つまりパブリックコメントをしたから変えられないというのは理由にならないと思う。余地がないという意味が、例えば議会だと、何かほかの要件があれば説明してほしい。</p>
事務局	自殺に追い込まれることのない長久手市ということで取組を進めていきたいということを基に計画をつくってきているということもあるので、今回についてはこの目指すべき姿でいきたいと考える。ご意見頂けたらと思う。
委員長	もしここでやっぱり修正してほしいということであれば、修正の余地があるという理解でいいか。
事務局	事務局としては、この目指すべき姿が国からも示されているものを基につくっているので、この姿でいきたいと考えているが、先ほど委員から提案をいただいているので、変えていくべきだということであれば、また検討していきたいとは思う。
委員長	まだ議会というか、承認があるとかの段階ではないという理解でいいか。議会を軽視してるとかの話になると、この委員会としても問題かと思ったので、あえて聞いた。
事務局	議会承認は特に関係ない。
委員長	委員から出た地域福祉計画の中に統合されてるという理由もその1つというふうに思うがどうか。
委員	私も委員の話を聞いた時に、こここの文言はそんな方向に行くといいなと思ったが、事務局側の立場もよく分かって、今回はこれで進めていきたいという思いもあったし、この計画も見直しがあると先ほどおっしゃっていたので、その時の課題として取り組んでいったらどうかなという

	提案をさせていただきたいと思うが、いかがか。
委員	<p>他の市町でも計画の策定委員会に出ていて、アドバイザーという役職で出たが、やはり市民に分かりやすいポジティブな言葉というところで聞いたことがあり、今回、今さらながら気になったというか、キャッチフレーズをあちこちで目にできるようなものだといいなと思ったので提案させていただいたが、今、委員がおっしゃられたみたいに言葉も大事だが、過程も大事というか、そういう積み重ねでいいんじゃないかと思った。</p> <p>また、いろんな書きぶりで表現するという話もあったので、ぜひお願ひできればと思う。</p>
委員長	いずれにしても、地域福祉的な視点で取組をしていくということで、今回はこの目指すべき姿はこのままということにさせていただきたいと思う。
委員	<p>今の自殺のところだが、89 ページのところに、困っている人のために何ができるか考えようとか、困ったと言える環境をつくろうっていうのがあるが、これも今回これでいいと思うが、困るということまで思う前の段階が悩んでいるということなのかなと思う。困っているという自覚がそんなになくて、でも、いろんなことを思い悩んでいる人がたくさんいて、そのことが自分を追い込んでいくことにつながる。だからといって、それを困っているというふうにその人自身の自覚があるか、困っているからそれを解決してほしいと思っているかというと、そうではなくて、さまざま悩みが重なってきてるのかなと思うと、悩みがある人のためにとか、悩んでいる、困っているという、そこでもう少しハードルが下がるといいのかなということを思った。困るという自覚があんまりないのか、その前のところからの積み重ねかなと思う。</p> <p>あともう 1 つ、70 ページのアンケートの結果、再犯防止で、下の欄で、過去に罪を犯した人の立ち直りに協力したいか、「協力したくない」「どちらかといえば協力したくない」という人が 43.8% いるという結果に対して、普通肌感覚で考えると、罪を犯した人、どんな罪なのか分からぬが、あんまり関わりたくない、怖いという思いがあるのかなと思うので、こういうアンケート結果を受けて、計画に掲げて何をしていくのかということは、しっかりと今後の進捗管理の中でも、例えば民生委員の会議の時に少しこういった再犯防止の取組の話をするとか、保護司に話していただくとか、何か改善できるような取組があるといいなと思う。</p> <p>それから、最後にもう 1 点、権利擁護支援計画のところで、58 ページの (4) 地域連携ネットワーク、こここの説明で、中核機関である権利擁護支援センターや福祉の関係者が協力してというふうにある。中核機関が何なのかということが下に書いてあるが、中核機関というところは権利擁護支援センターに設置していると書いていただけだと、中核機関が何なのかがこの書き方だと分かりにくいと感じた。</p>
委員長	<p>固有名詞は注意書きの中で入れていただくということで対応お願ひしたい。</p> <p>それから、先ほどの再犯防止の関係では、先日豊田に伺ったら、豊田市に自立援助ホームで、新しい施設ができて、写真を見せてもらった</p>

	が、若者が来て、そのネットワークで彼の就職がうまくいったみたいな絵が出ていたが、犯罪を犯した若い人たち、若いだけに限る必要は全然ないが、いろいろ新しい動きが、なかなかそれが運営する時に支援の輪が広がらない傾向にもあるが、私も豊田のその例を拝見させていただいてすごいネットワークができていると思った。誰かご存じか。
委員	知らない。
委員長	<p>名古屋の団体だったと思うが、豊田に来て新しいのができていたので、いいなと思ったという情報提供だけ。</p> <p>ほか全般的なことで、もしよろしければお願ひしたい。</p> <p>少し私のほうから、今日のこの資料の扱いは、先ほどもちょっと触れていただいたように、ワークショップなどいろんな取組があつて、それがこの計画書の中に、計画策定の過程というところで、こういう作業してきたということで、2つ目にワークショップとまざって長久手フェスタのことが書いてあって、その後このワークショップがこういうような展開されていったということが記載されてるという部分になる。これはとてもいい記載で、関わった人たちも励まされるかなというふうに思ったが、それで今後計画を推進していく上でこれをさらに活用していきたいというのは、この計画書、私も確実に全部チェックしたわけでなくて、どういう形で出てるのか。</p> <p>計画の推進の80ページの上から4行目ぐらいに、ワークショップ開催などが記載されている。</p> <p>言いたかったのは、前ですごい強調してる割にはあっさり感がある。つまり計画の推進で、過程の中では一生懸命ワークショップするんだけども、それを周知するためについてある程度にしか印象が見えなくて、むしろこの進行管理の下に、地域の方への聞き取りとか現場確認とか、そういう観点でも評価していこうって話がここに書いてあるので、ワークショップ自体が現場確認的っていうか、地域の方々への聞き取りの場だとか、策定に際してそうだったと同じように計画の推進の場面においても同じようにワークショップを重視していきたいというのがもっと強く出ると組織は変わるのでないか。</p> <p>つまり何を言いたいかというと、地域共生推進課が直接地域福祉計画を所管していないんだけども、逆に言うと、こういうワークショップ系のことは地域共生推進課が一生懸命、福祉課がやってないと言ってないんだけども、地域共生推進課のマターとして一生懸命やられたんじゃないかなというふうな印象を持っている。そうすると、今度ややこしくなるが、つまり福祉計画は福祉政策課のほうのマターになるのか、福祉課にとどまるのかというのは私もよく分かっていないが、この進行管理を先ほど課長が言われたようにネットワーク型でやるみたいなことがとても必要になっている。</p> <p>そういう意味で、せっかく策定過程の中でここまで重視し、かつ一定の成果があった。さらにそれを強化していく必要があるんじゃないかなということも含めて、このワークショップというか、あるいはこの評価の中で現場を確認するっていうことがもっと強調されてもいいんじゃないかなという印象は持ったが、このあたりの加筆をもし検討していただきたいと思っている。</p> <p>つまり新しい組織の変化自体はここで書けないかもしれないが、この</p>

	部分が強調されて、地域共生推進課が果たしてきたものが今後も続くようなイメージが残るといいと思うが、いかがか。
事務局	<p>今年と去年と、市民の方と一緒に考えるという場で市民ワークショップというのを実施しながら、この策定に生かしてきた。</p> <p>同じように今後も、推進に当たっても市民の方と一緒に考えるという場を設定していきたいと思っているので、そちらのほうも地域共生推進課と福祉政策課と一体的に進めながら、策定と同じように推進も市民ワークショップなどを生かしながらやっていきたいと思っているので、その表記については、強調したい。</p>
委員長	地域共生推進監はどうか。せっかくなので。
地域共生推進監	<p>今、課長からお話しさせていただいたように、2年間、まさにワークショップと一口に言ってもいろんな方式があると思うが、典型的な付箋に意見を書いて、それを皆さんで一緒にもんで1つの形にしていく方式も取らせていただいたり、あとはバーチャル的にというか、時間を限定する形ではあるが、多世代の交流、例えば親戚でも親族でもない皆さんと多世代交流というものが発生すると一体どんな変化が起きるんだろうかということを試してみて、それを観察する形で、やはり交ざって暮らすことって意味があるということをワークショップ的にやらせていただいたりとか、あとそこに運営側として住民の皆さんに関わっていただくことで、今まで市が、言葉選ばずに言うと独り善がり的に負っていたところ、自分たちが責任を負ってしまっていたところについても、皆さんと一緒にやることでどれだけ多様な、私たちも全然思いもよらなかつたというか、思い付かなかつたようなことも含めて、一緒にやっていくことで多様な活動が生まれるんだということを本当に肌身で感じているので、最初の冒頭の説明にもあったように、計画ができるからがスタートだということだと思うので、この計画の進捗の中でまた計画自体も育てていけたらいいなというふうに思っているので、まさにそのワークショップの形式も、いろいろたぶん皆さんの中でもほかでご経験されてご提案もあるかと思うので、ぜひそのあたりを私たちにも教えていただき、一緒に体感、体験していただいている。</p>
委員長	<p>第3回まざって長久手フェスタが予定されているので、この計画の紹介もそこでするということもあって、この計画の実施にまた交ざってくださいというメッセージをこの第3回で出し、委員の方も1人登壇されるということもあり、副委員長と私も出て地域福祉計画を宣伝することもあるので、その策定の時のワークショップ、それを推進する時のワークショップで力の入れ方等もあろうかと思うので、ぜひそこは強調していただいて、行政の担当がまざってフェスタでご説明される時に、少し強調していただくことでこれが生きてくるとありがたいなと思って、余計なことかもしれないが、発言させていただいた。</p>
委員	おっしゃるとおりで、今後の進捗みたいなところで、閉じたことではなくてワークショップのようなことを取り入れたり、あるいはワークショップが行われた意見をしっかりと踏まえるというような形の今後の方針はここに書き込んでもいいのかなど、実際そういうふうに取り組まれるということだと思う。この計画の趣旨にも非常に合致したものだと思うし、推進のためには必須のことだと思う。

委員長	ではもう少しご意見頂きたいと思うが、いかがか。
委員	<p>2年間携わらせていただいて、とても自分の中でも勉強になった。そして、今、自分の活動として考えているのは、近年、高齢者に対する活動が増えていて、その見直しというか、児童に対しては少しずつ関わりが増えてきてはいるが、その中間層というか、ひきこもりをしてしまうような方、孤立をしてしまうような方に対する私たちの支援というか、活動、見守り体制が少し軟弱化していたのかなという反省を今しているところ。</p> <p>これは各地域の自治体の方たちとの連携、そしてCSWとの連携、社会福祉協議会との連携、先ほどからよく出ている地域との交わり、つながり、こういったものをもう一度見直すということに関しては重要なことかなと感じている。</p> <p>これから6年間というこの計画だが、この計画をもっと肥やしにして、それなりに自分たちの中でこなれていくといいなという、難しいことは分からぬが、自分たちの中で大きくしていこう、見直していこうという思いが今ちょっと湧きつつある。</p>
委員	話が外れるかもしれないが、まちづくり協議会という組織がある。この計画の中の43ページに、地域とはというところがあつて、まちづくり協議会はここには入らないものなのかなと。
委員長	では福祉部長のほうから。
福祉部長	まちづくり協議会とはということをお話しされればよろしいか。
委員長	この43ページの絵の中にまちづくり協議会を入れてもいいんじゃないかというご意見も含めて。
福祉部長	<p>地域を統括する組織ということで、ネットワークをつくる団体というか、上下関係のないフラットな関係をつくっていくということで、どこに入れるかというと、もし入れるのなら学校区域の地区社協とかCSWとかそういうところ、吉田市政の時に進めてきた小学校校区単位での小さなまちづくりということで、その中で地域の皆さん全員が関係ができるようなまちを目指したいということになるが、ここに入れる地域という部分が、まちづくり協議会がある地域とない地域とかいろいろあるので、微妙なタイミングというか時期。</p> <p>今、市内でできているところとできていないところ、つくろうと思うけどなかなかできないところ、いろんな状況があるので、今回の計画、6年計画だが、小学校区域の中で書くことはできると思うが、それが全小校区であるかと言われると微妙なところなので、これもやり方によっては、同じ小学校区の中でも、例えば昔のまちの形成からして、東小学校区だと昔の村の単位で今地域が動いているので、なかなか1つになるというのが難しいところもあったりするので、一般的な人が見た時に理解できる絵というと、今はこれが一番最適なのかなと考えている。</p>
委員長	基本的には入れられるという方向でもよろしいか。それとも入れないほうがいいとかそういう議論ではないような気がするが、最初のまちづくり協議会そのものも福祉的な課題を担う部分も出てくる可能性が高いが、ただ、ないところがあるからと、そういう意味だと思う。
委員	今、地区が少しそういった共同体をつくろうということで、現実にな

	<p>ってきているという話を伺っている。東小校区についてはまだまだその下の段階で、新しい住宅地と、先ほどおっしゃられた旧自治区とのつながりをどうしたらいいのかというところを模索中。なので、反対にどう交わっていけばいいかということを考えてる最中。現在進行形という形であればここを入れることはできるのかなというような感じはする。</p> <p>この枠の中に入るのは難しいかもしれないが、先ほど他の委員とも話をしたが、この下の文章の中で少しそういう将来的なことを入れていただけると皆さんもご理解いただけるのかななんていうことを考えていた。</p>
事務局	実は、この地域とはというところにどのような団体を載せるのかというのはすごく悩んだところ。今ここに記載した公共的なもの、市とか社会福祉協議会とか地区社協、そのほか地縁組織、自治会、子ども会、シニアクラブなどを書いている。それ以外のものになると、何か1つの団体を載せると、あれもこれもということで書き切れなくなるということが実際にこの絵を描く時に発生した経緯がある。それをふまえて公共的なものと地縁組織のものを記載した。
委員長	そうすると、まち協は必ずしも公共的ではないという理解か。
事務局	ではなくて、先ほど委員のほうからも話があったこの説明のところで、まちづくり協議会、まちづくり組織というのは市の条例の中に書かれている取り組むべきものであるので、文書の中で入れるということは検討できると思う。
委員長	いずれにしても、いろんな意味でまちづくり協議会あるいは地区社協、そういったコミュニティーというか、地理的なコミュニティーをベースにいく組織がそれなりに強化されていかないと、なかなか支える部分が難しいかなと思うので、補足説明を考えていただくようにしたい。
委員	79ページのところの一番下の四角の枠の中、社協がこれから取り組みたいことの2つ目の丸なんですが、「ボランティアのマッチングや」で終わってるので、続きがあるのか、「や」が要らないのか、確認をお願いしたい。
委員	私も、今日はまとめというか、総括的な場だと思っていたので、これまでの議論をこういう形にして計画書という形ができたということで、イラストとか写真とかすごくたくさん使われていて、漫画もあったりとか、すごく見やすい形になっているなというのが印象。これはやはり、計画はつくるところまでの過程が大事なのと、これから進捗、実行していくということが大事なので、その具体的なやり方を今後私もその中の1人としてやっていかなければいけないと感じていた。
	先ほど話題に出た自殺対策のところで、実際本当に私自身が、自分の担当している高齢者の方のご家族の中に自死の方が出了ということが以前あり、本人の支援ももちろんだが、ご遺族というか、ご家族の支援というのもすごく大事だと思いながらも、なかなか自分の仕事の範疇の中では難しいが、そういった視点も少し今後入れていけるといいなと思っている。
委員長	自死された後のご遺族の支援も、自殺対策の中で考えていただく必要があるんじゃないかということで。
委員	本当に大事ではないかと思っていた。

委員長	また施策に生かしていただければと思う。
委員	<p>コミュニティソーシャルワークの専門的なところで学生とお話する中で、どうしても支えていく若者たちの集団がこういう職種を選んでくれないということで、私も関わっているが、1番が公務員で2番が社協で、3番が一般企業でというようなアンケートを見ると、やはりこういう人たちが地域を支えていただかなければいけないということで、1年の講義の中で現場を3日、4日見てもらうと、はっとしたとか、働きがいを感じたというのを、私の立場はそういう人たちを育てていって、学校卒業したらさっきの1、2、3の順番が変わるような人を育てていきたいなど。</p> <p>最近では、一家全体が寝たきり、高齢、ひきこもり、知的障がい、お金の計算ができない、毎週その方のところに訪問しているが、専門的な方々が細やかな支援で、いつも課題を皆さんで確認しながら専門性を持った方の見立てをみんなで共有するというのがないと、どこか1つでも欠けるとその家庭はたぶん崩壊するんだろうなというので包括も含めて民生委員も含めて情報共有しながら動いてるというのを続けながら、こういうのが地域で丁寧にされないといけないんだろうなという感覚をいつも持っている。</p>
委員長	ぜひ計画の実施という中で、人材育成というか、大学の多いまちでもあるので、そういうことを大学と協働しながら、これまでも少しそういう経験や、今回のまざってフェスタも大学の中で活動されている方が出られるようですけれども、ぜひ若い人たちの地域福祉への関心というのも深くしていただければと思った。
委員	できたものを見て、今まで地域とはとか、地域でどんなことができるだろうかというようなことをこの場は考えてきた場だったのかなと感じたが、他のところのこういう計画というのがどういうものかしっかり見たことないが、何となくもうちょっと堅い印象で、それは計画としてきっちりとした文章で書いてあるものという実際の市民とはちょっと乖離がそこにあるもののようなイメージだったが、これを見て、特に目標の一つ一つに具体的に地域でこんなことが起こっているというのが例として分かりやすく書いてある部分が、すごくこういう計画と普段の市民の日常の生活が近くに感じるようなものになっているとすごく感じて、その部分がすごくいいなと思った。そういうものを今度例えれば計画を実際に移していく時に、どれがどれだけできたというふうに判断するんだというところが難しいのかなと思ったが、例えば共生ステーションに何人来たとか、会議室の稼働率などを聞かれることが多い、成果として。そうではなく、実際そういう場所にいっぱい出向いて行って、こういうことが行われていたというのがその場に行って状況を見たら分かってくことだと思うので、これを推進していく時にも、実際に現場でこんなことが行われているというのを一つ一つ拾っていくということをしていってほしいなど感じました。
委員長	ぜひ現場確認を今後していきたいというメッセージもあったので、その関連で、進行管理とか実施の段階でそこを膨らませていただいて書いてたらどうかということなので、今の意見はそこに反映できるのではないかと思う。
委員	私のほうも今いろいろ動いてるつもりだが、自分のつもりだけでなか

	<p>なか付いてこない。シニアクラブもしかり、私の地域で言えば子ども会もしかり、自治会連合会という連合もしかり、自治会もしかり、今年私の地域では、自治会の会長が次の成り手がなくて、前年度の方が、もう仕方ない、私がやるというような形で、どうも話が、ここに書いてある意味でなくて後ろ向きに動いてしまっている。それをどうしようかなということで、今悩んでるのは事実。</p> <p>皆さんいろいろなところで活躍されているので、そういう面では別に、地域がまとまってないという話でもないが、なかなか役職をというか、自治会長やってほしいと言ったら、じゃあもういいと、それで去年うちのグループ、長湫八分会という会だけでも十何名が脱退されている。はっきり言って、やめられたらあともう何もないし、非常にそこらあたりでジレンマというか、ここに書いてあるように物が動いていけばいいが、現実動いてないのが事実。だから、何かいい方法はないかなと思って動いてるが。</p> <p>その中で1個良かったのは、今回、2月17日に各自治会に連合会として防災訓練ということで案内したら、50人ぐらいが予定されていたが、全部で72名という大盛況になり、講師にも非常に今日は盛況だということで、ある面では動いてるけど、ある面では私の目から見ると衰退しているのかなというところもあるので、衰退したらこの計画自体が何もできなくなるので、非常に今ジレンマを感じている。</p>
委員長	<p>先ほど他の地域福祉計画のことを少し触れられたが、もともと長久手は比較的課題の少ないまちだという話でずっとやってきたが、今回はご指摘された防災の問題はこの計画の中では必ずしも大きくなくて、ただ、この1月の能登の地震のことがあった結果、さっきの2月のそういう取組も関心が高かったように思うので、今後この計画を実施する段階において防災との関わりも視野に入れて、より一般コミュニティーの人たちが地域福祉計画に関心を持つていただくような新しい領域というか、全く触れられてないことではないが、もう少し強調されてもいいのかなというご意見もあると思うので、また進める上で記録を取っていただいて、次のところにバトンタッチしていただければなと思った。</p> <p>先ほどいろいろ自殺対策のところでは事務局を困らせたかもしれないが、進行管理や一部誤字脱字等は直していただくということで、この第3次、それから社協の活動計画を含んだ地域自殺対策あるいは権利擁護支援の計画を合本したこの計画をご承認していただくことでよろしいか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>それでは、次に重層的支援体制整備事業の実施計画について報告をお願いしたい。</p>
議題（2）に関連して重層的支援体制整備事業実施計画について資料3に基づいて事務局から説明	
委員長	既に地域福祉計画の中に盛り込まれている部分もあるかと思うし、いわば市長直轄として生まれたこの地域共生推進課がこの計画をつくるにあたっていろんな模索をしてきた1つの成果みたいなものであろうかなと思っているので、何かご質問とかご意見よろしければお願ひしたい。

委員	今ご説明いただいた資料の12から13ページのところに、府内連携の体制図、その説明が13ページにあるが、その中で内容がよく分からぬ言葉が1つあって、包括化推進員会議というのがある。13ページの③に、「重層的支援会議等では、包括化推進員が調整役となりうんぬん」と書いてあるが、具体的に言うと、包括化推進員というのはどういう方がなられて、その推進会議というのは実際に行われているのか、どのような内容でどのくらいの頻度でということが読んだだけでは分からぬで説明いただきたい。
委員長	重層的支援整備事業の中で人件費が付く重要な施策かと思うので担当のほうからお願ひしたい。
事務局	この包括化推進員というものは、この重層的支援体制整備事業の中で、多機関協働事業ということで、いわゆる複雑な事例とか複合化した事例はいろいろな関係機関が多様にわたるということで、複数の関係機関を調整する機能ということで、いろいろ複雑な事例の機関だとやはり調整して役割分担をしながらチームで支援をしていく体制が必要となる。そのチーム支援の調整役を担うのが包括化推進員ということで、社会福祉協議会に1名、地域共生推進課に1名配置していて、複雑な事例が各関係機関から持ち込まれた場合に、その調整機能であったり役割分担をするというものを、この包括化推進員会議で担っているというものになる。
委員長	新規に2名、社協と行政の中にいるということかと思う。 先ほどの絵で言うと、1ページ前に戻って、11ページで見ていただくと、人材配置がこの絵の中に出ているが、まちの保健師の下に包括化推進員という人が配置されていて、悩みごと相談室という、これは地域共生推進課のことか。
事務局	そうである。
委員長	そことCSWと、それから地域共生推進課の中に配置されている地域に出ていく地域共生担当あたりで多機関協働、「多」というのは下に書いてあるように多機関協働による支援のチームを構成してるという関係になる。 地域共生推進監、この制度設計をしたお立場も含め、この推進員の意義について説明いただきたい、後でごあいさつもあろうかと思うが、3月で厚労省に戻られることも含めて、現場の感覚も含めて一言お願ひしたい。
地域共生推進監	私からもぜひ皆さんにお伝えしたかったことだったので、先にごあいさつするが、私がこちらに来たのが令和3年の7月、まだコロナ禍という状況だったが、そちらから2年と9ヶ月たち、今年度末で厚生労働省に戻る。長かったような、あっという間だったような、何とも言えない不思議な気持ちだが、私としても自分がつくった重層的支援体制整備事業、まさに長久手の初めての実施計画というところの策定に関わったことと、今回の第3次のこれから約6年間、長久手は本当に大きな変化を迎えていくと思うが、そちらの計画策定に関わることができて、本当に貴重な機会だったと思い、厚生労働省に帰っても、ある意味東京都長久手村の住民として、いつまでも関わりを続けていけたらいいなと思っている。

	<p>今、話題で頂いた多機関協働事業だが、今映していただいている11ページの図で見ていただくと、こちらが長久手の現状ということで、これからどんどん例えば包括化推進員がいろんな機関のつながりづくりをし、本当の意味で断らない相談支援をしていこうと。</p> <p>もう少し詳しく言うと、制度の発想としては、一人一人の相談の窓口の方、もちろん必ずしも窓口でなくても、住民の皆さん、民生委員・児童委員の皆さんでも全然構わないというか、仲間と考えているわけだが、そういう断らない相談支援をするためには、その相談を受ける方々の背景に必ず仲間がいることが私はすごい大事だと思っていて、支援者が孤立している状態だと相談を受け止めることもできないという発想が、制度の創設というか、設計をしている段階の時にあり、なので、先ほど課長から説明をした多機関協働事業は、そういう意味で支援者の中でのネットワークを再度つくり直していこうというものである。</p> <p>福祉の縦割りの制度の影響で、支援者同士のつながりも、研修も、とある分野であれば分野ごとの研修になっていて、出会いの機会もなく、またコロナの影響もあり、皆さん本当に地域の出会いが減っているなと思うが、それを再度つないで、長久手の中でこういう体制を考える仲間をつくる核となる人材として包括化推進員、これは名前はいろいろ付けられるわけなので、皆さんこの名前が堅いなと思えば、何とかコーディネーターとかでもいいんじゃないかというアドバイスもぜひぜひ頂きたが、その仲間が今2名いるということで、この人数がもっともっと増えていけば、きっとハブとなる人材の方が増えて長久手でまたいろんな支援者間のつながりができていく、支える側も支える、そんなような発想の事業になるので、皆さんぜひ関心を持って、その発展の状況について関心を持って見守っていただければと思う。</p> <p>最後、事務的な感じだが、先ほど委員からご質問いただいて、私も包括化推進員は分かりにくい単語だろうなと思っていたので、3ページ目のところの脚注に少し解説を付けさせていただいているので、この表現についてもまだ少し分かりにくい、抽象度が高いということであれば、こちらもまた後ほどご指摘いただければと思っている。</p>
委員長	せっかく11ページに、これ先ほども注意深く言われたように現状の絵なので、もう少しこの重なりをどんどん増やしていく必要があるという点で、ほかの自治体とかいろいろ経験してきた中で言うと、これ割に制度にのっかって作られている絵なので、一番最初の「包」と書いてあるグループとその多機関協働のグループとが本当は重なりができないといけないということで、まだまだそこは課題かなというのと、下のほうに地域支援コーディネーターとか生活支援センターがあって、そこも地域づくりの輪の中に今後はもっと入っていただくような感じがいいかなと思うので、ぜひこの実施計画、長久手は割に人材を育成していくという観点がこの重層の中で結構強かったので、今こういう現状だけれども、毎年この絵を順次作り替えていただいて、この連携の幅がどういうふうな重なりを持って広がってるかということも、その都度点検していただくような進行管理をしていただければいいかなと印象として持っている。
委員	29ページだが、それまでの図とか絵がすごく丁寧だが、29ページだけ白くて一色になっていて、私は長久手には住んでないので、これだとど

	の地区がどの絵なのか分からなかった。だから地区とその枠の色を一緒にいるとか、例えばその地区だけ図に落とし込んで説明するとか、ここ29ページをもう少し丁寧に、これだけ地区を見てるというのは大事だと思うので、ご検討いただけたらと思う。
事務局	おっしゃるとおり小学校区ベースで色を変えるとか、そういう工夫をしていきたい。
委員長	<p>あとは17ページを見ていただいて、地域共生推進課あるいは地域共生担当が、先ほど事務局のほうでもこれまでの振り返りみたいな感じがあるという話の1つとして、これまで取り組んできたプロジェクトがここに5つほど並んでいる。この中で、こういうことにも関心があって関わられた方とか、何かコメントでもしていただければと思う。</p> <p>私はハイハイレースがものすごく盛り上がって、比較的若い世代が今回の計画づくりの中に登場されたというのが印象に残っていて、説明の中にあったように、全て行政が抱え込む傾向があったが、投げかけければ結構いろんな人が交ざってくれる、そういう地域なんだというお話もあって、それを現したのがこのハイハイレースだったのではないかなどという印象を持っているが、何かこの間試行的に取り組まれて、もっとこういうものを発展させてほしいなど、意見あれば聞いておきたいがいかが。</p>
委員	<p>今、ハイハイレースの話があったが、私も2回ハイハイレースを西小学校区共生ステーションで行った時に、一緒にその場にいてお手伝いさせていただいたが、お母さんたちのグループを例えば家が近い人たちにして、ちょっとした話し合いとか、話せるような場にしたら本当に盛り上がって、それぞれの悩みとかを話し合う場になった。</p> <p>例えば母子の相談窓口というのが市役所の中にあったとしても、赤ちゃんを連れてそこまで行くというのはかなりハードルが高かったり、よっぽどのことじゃないとというふうに感じるが、そういう場で出てきた悩みとかを拾っていくというほうがよっぽど現実に近い、みんなこういうことで困ってるんだということが拾える場になってるのかなというのをすごくそこで実感したので、相談窓口に来た人、本当に深刻な人をしっかり支えていくことも大事だが、皆さん共通してこういうこと困ってるよねというぐらいのことを拾う場は本当に大切だと感じた。</p>
委員長	ほかの自治体の例だが、こういう地域でやるプロジェクトというか、催しをアウトリーチ事業に位置付けている。つまりアウトリーチがどうも戸別訪問のように、制度設計した立場でどうかみたいなのはあるが、アウトリーチの事業というのはもちろん相談の後にフォローしていくという趣旨でつくられた事業だと思うが、今おっしゃったように、こういうハイハイレースの場にアウトリーチして相談を拾う、そういう意味もすごく大事で、この4番目のプロジェクトの狙いは、身近な地域で相談を受け止めるということになっているので、アウトリーチ的な意味合いをこういう共生ステーションとかを活用した、イベントというとあれかもしれないが、ぜひそういう視点も重層の中で考えていただければと思う。
委員	このプロジェクトの中で私も参加させていただいたのが、3番目の多様な地域課題に対して各分野の連携による包括的な支援体制というところの庁内連携会議とかも、重層のメンバー会議、実務者会議にも参加させ

	<p>ていただきいていて、本当に試行錯誤をすごく地域共生推進課の方が頑張っていて、市役所の中の横のつながりというのか、縦割りじゃなくて横のつながり、本当に1つの事例を出したりとか全然関係ない課の方でも一緒に検討するというのを積み重ねられてたというのがとても私は印象的で、本気で市役所の人たちの横串を刺すというか、人材育成というか、市民のために働くとはどういうことなんだろうみたいなところも検討されてたなというのは非常に印象に残っていて、いい会議だと思う。本当に試行錯誤だったということは感じている。そこが本当に良かったという1つの評価。</p> <p>あともう1つ、居場所の支援というところも、すごく頑張っているような場所を、市内のいろんな場所に出かけていっていろんな居場所をつくっていかれるっていうか、自分たちがつくるんじゃなく、フォローをするだとかいろんな人をつなげるとか、そういう視点で活動をされていたなということも本当に印象的であった。</p> <p>パブリックコメントにもあったが、本人より家族が将来のことを不安になり相談するということを書かれていて、本当にひきこもりの方本人の支援と同じぐらいそのご家族に対しても支援は要るんだろうなと思っているので、そういう視点が今後あるといいんじゃないかなと思った。その人だけではない家族を支えるというか、そういうような目線で今後支援体制もできていくといいんじゃないかなと思う。</p>
事務局	<p>府内連携については、やはりこれまで縦割りでずっと進めてきたという市役所の文化を変えるとまではいかないが、それぞれが協働することで少しでもいいものが生まれる、そういう協働体験を積んでいくというのに行政が慣れていないという現状があった。なので、まずはそこの府内の意識を少しでも変えることができるといいなというところから、この実務者会議であったり府内連携会議を進めてきたという経緯がある。</p> <p>まだまだその意識が変わったかというとそうではないとは思うが、少しずつ府内連携会議をやってそこで出た意見を成果として、こういったプロジェクトができた、こういった取組をやっているという声がちょっとずつ外から聞こえるようになってきたので、少しずつそういったところが市役所の職員の中にも芽生えてきたんじゃないかなと思っている。</p> <p>なので、本当に繰り返し繰り返しこれをやっていくしかないかなと思っているところなので、地域共生推進課が重層的支援体制整備事業の実施計画を少しでもその道しるべとして活用できるようにつくったつもりなので、それを生かして、引き続きこういった体制を取ってこの事業を推進していきたいと思っている。</p>
委員長	<p>すごく努力されているという感覚を伝えていただいて本当に良かったかなと思うが、こういう新しいいろんな動きがある意味で市長直轄で触ることができたんじゃないかなという思いも私としてはしているが、せっかくなので地域共生推進監、外から来て触るといろいろ大変だったという話、もしあればどうぞ。</p>
地域共生推進監	<p>もちろん大変なこと、新しいことを始めるというのは必ず賛否両論、もちろん皆さんも日ごろのご経験の中であるし、摩擦が起きてるからこそ、これはチャレンジしている証拠だというふうに思っていたので、課員のみんなと、もちろん今日並んでもらっている関係課の皆さんにもい</p>

	<p>いろいろと負担というか、初めの頃は何のためにというところが見えてこないところもあったかと思うが、今は何となくその時間をもやもやする思いがありながらも、例えばこの限られた2時間という時間の中で仮に結論が見いだせなかつたとしても、その後問題意識を持ち続けて時間をかけながらも何か形にしていく、そういうことについて何となく慣れてきたんじゃないかなという気持ちはあるので、こういうじっくり育てていくということが市役所の中でできていくようになれば、きっと地域の皆さんともある程度足並みをそろえながら、同じ気持ちを持ちながら、協働していくということもその先にきっとできてくるんじゃないかなと思っているので、ぜひ皆さんにも良き協働のパートナーとして市役所の体制を見ていただきたい。</p> <p>市長直轄組織は、冒頭に説明があったとおり3年間のプロジェクト期間を終えて既存の部のほうにそれぞれ移行、一部くらし文化部に入り、一部福祉部に入るという既存の体制に入れそうだという感覚があって、何も解体されてなくなつたということではなくて、私としては、3年間じっくりと長久手市における包括的な体制、みんなで協働した体制はどういう形があり得るのかということを模索した結果、見えてきたものがあったので、既存の部の中でもできるという判断をされたのではないかなとすごく前向きに思っているので、皆さんもぜひそのようにこの体制変更を受け止めていただきて、より幅広い関係者で、今後長久手が迎えるいろいろな高齢化の事案だとか、まさに既に起きている閉じこもり、ひきこもりの問題だとか、孤独・孤立の問題だとか、そういうことにみんなで考えていく体制がこれからできるというふうに私は希望を持っているので、そのように皆さん捉えていただきて、一緒にお力を貸していただきたいと思っている。</p>
委員長	福祉部長からもお願ひしたい。
福祉部長	<p>組織の話だが、今まで2課というか、直轄の部分と福祉部ということいろいろやってきたが、この4月から、市長も去年の夏に替わり、直轄という部分をどうすべきかということを議論されてこられたと思うが、この4月からは、たつせがある課でやっていたことと直轄でやっていたことを融合して、より地域との関係性、自治会およびその自治会に属さない人たち全てを含めながら地域活動としてやっていくということになっている。</p> <p>福祉部のほうで、一部その相談的というか、福祉行政に関わる部分は福祉部のほうに来て、今までとやることは変わらない。それが直轄という名前がなくなって、溶け込んで、より今までやってきた市民主体のまちづくりというものが強化されるんじゃないかなと思っているので、また皆さんの協力を得ながら、先ほど委員からあったが、直近の課題は福祉という課題もあるんですが、やはり地域のつながりというのがかなり今低迷してて、自治会も年々脱会率が相当上がっているということで、いろんな地域でも自治会の組数が減ってきたり、そういうことが課題になっている。</p> <p>今年の場合1月に能登で地震が起きたが、有事の際には全部つながるんじゃないかみたいなことを言っていた時代もあるが、なかなかそうもいかないような感じが最近している。長久手に愛着を持てる人の数を増やさないことには、やはり長久手が盛り上がらないというのがある</p>

	で、ジブリが来て人が来てもやはりお客様という部分があるので、地元として、きちんと長久手としてやっていくということで、ある意味直轄がたつせがある課と合体することによってパワーアップされるので、また皆さんのお力を頂きながら良い長久手をつくっていけるかなと思っているので、協力をお願いしたい。
委員長	では議題は以上として事務局へ進行を返したい。
3 その他・連絡事項	
事務局	(まざって長久手フェスタに関して案内)

閉会